

## 授業科目と授業概要

※ 3年間で履修する全ての授業科目の授業概要を示します。

	履修科目	講義等の内容	時期
基礎分野 (13単位)	人間工学	保健・医療・福祉分野、特に看護における機械・機器、空間と人間との好ましい対応関係など、安全性・快適性・効率性を考慮した人間工学の基礎的な概念を理解する。	1年次前期
	論理的思考演習	科学的根拠に基づいた論理的思考力を育成し、また、論理的な表現能力を身に付け、看護実践領域で活用できる能力を養う。	1年次後期
	心理学	対象とする人間の心や行動を理解するために必要な理論を学ぶ。	1年次前期
	社会学	ものごとを社会の中で多角的に、時に批判的に見る社会学的な見方、とらえ方、社会に関する知識を身につける。看護や看護職が社会とどのようにかわり、社会の中でどのように位置づけられるのかについての洞察や理解を深める。	1年次前期
	国語リテラシー I	文部科学省はこれからの時代に求められる国語力として、国語力は「知的活動」「感性・情緒」「コミュニケーション能力」のなどの基盤であり個人の自己形成にかかわる重要な能力である指針を示している。これからの社会人（医療人・看護者）としての基本として重要な理解する力と表現する力、物事を考える力について学ぶ。	1年次前期
	国語リテラシー II	国語リテラシー I（基礎）をもとに、「ことばの使い方」や「読み方」「読みやすい文章の書き方」など日本語の表現技術演習を通して深める。	1年次前期
	英会話	国際化時代に対応できるコミュニケーション手段としての総合的英語力、特に「聞く」「話す」能力を身につける。	1年次前期
	看護英語	看護・医療従事者に求められる基本的な医学英語知識の習得を目指し、英語を理解するために必要な読解力・聴解力を身につける。	3年次後期
	倫理学	看護倫理とは何かを理解し、その重要性を学ぶ。保健医療福祉現場で看護師が直面する倫理的課題について考察し、看護師としてどのような倫理が求められているかを理解し、基本的姿勢と態度を養う。	1年次前期
	健康運動	健康 3 大運動の理解で自己健康管理と楽しい運動でチームワークとコミュニケーション能力を高める。	1年次前期
	人間関係・カウンセリング	専門的援助の基盤である人間関係のとらえ方、コミュニケーションスキル、カウンセリング理論と方法について学ぶ。	1年次後期
	教育学	人間の成長と教育の意義、教育の目的など教育学の理念・基本概念について学び、家庭教育、健康教育・生活指導などの実践的能力を養う。	1年次後期
情報科学・演習	各自がパソコンを使って、基礎的なコンピューターリテラシーを習得し、看護現場において必要な情報通信技術に関する知識と技能を身につける。	1年次前期	

	履修科目	講義等の内容	時期
専門基礎分野 (21単位)	生化学	<p>生体がどのような化合物で成り立っているか、またそれらの化合物がどのようにつくられ壊されて生体の恒常性が保たれているのかを理解する。</p> <p>【学習内容】1. 生体を構成する物質：1) 生化学の基礎 2) 糖質 3) 脂質 4) たんぱく質 5) 核酸・水と無機質 6) ホルモンと生理活性物質、2. 生体内の物質代謝：1) 代謝のあらましと酵素 2) ビタミンと補酵素 3) 糖質代謝 4) 脂質代謝 5) たんぱく質代謝 6) 核酸代謝、3. 遺伝子情報とその発現：1) 遺伝子情報 2) 先天性代謝異常</p>	1年次前期
	解剖生理学Ⅰ	<p>解剖学では、人体の正常な形態とその形成過程および機能的意義について、系統的に理解する。生理学では、解剖学で学んだ生命の構造がどのように働くのかという「機能」について学ぶ。</p> <p>【学習内容】</p> <p>1. 人体の構造と機能を学ぶために、2. 解剖生理学を学ぶための基礎知識、3. 栄養の消化と吸収：1) 口・咽頭・食道の構造と機能 2) 腹部消化管の構造と機能 3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4) 腹膜、4. 身体の支持と運動：1) 骨格とはどのようなものか 2) 骨の連結 3) 骨格筋・抗重力筋 4) 体幹の骨格と筋 5) 上肢の骨格と筋 6) 下肢の骨格と筋 7) 頭頸部の骨格と筋 8) 筋の収縮</p>	1年次前期
	解剖生理学Ⅱ	<p>【学習内容】</p> <p>1. 呼吸器の構成（上気道、下気道・肺、胸膜・縦隔）、2. 肺循環、血液、3. 発音と構音、4. 内呼吸と外呼吸、5. ガス交換とガス運搬、呼吸の神経性調節、6. 血液、赤血球、白血球、7. 血沈、凝固、血液型、8. 心臓、9. 血管の構造 肺循環の血管、10. 全身の動脈 全身の静脈、11. リンパとリンパ管、12. 心臓の拍出機能、13. 心臓の収縮、14. 血液の循環の調節、15. 血圧・血流量の調節</p>	1年次前期
	解剖生理学Ⅲ	<p>【学習内容】</p> <p>1. 腎臓の構造、2. 排尿路の構造、3. 排尿のメカニズム、尿の正常・異常、4. 体液と電解質、5. 男性生殖器と排尿路の位置関係・構造、6. 自律神経の構造、7. 内分泌による調節、8. 全身の内分泌腺と内分泌細胞、9. ホルモン分泌の調節、10. 皮膚の構造、11. 生体の防御機構、12. 体温とその調節</p>	1年次前期
	解剖生理学Ⅳ	<p>【学習内容】</p> <p>1. 脊髄と脳、2. 脊髄神経と脳神経、3. 伝道路、4. 視覚、5. 聴覚、6. 味覚と嗅覚、7. 活動電位、8. シナプス、9. 脳脊髄液、10. 脳の高次機能、11. 女性生殖器の構造、12. 女性の生殖機能、13. 受精と胎児の発生、成長と老化</p>	1年次後期
	病理学	人体組織における病的状態の原因・発生機序を理解する。	1年次前期
	微生物学	微生物についての基礎知識、感染と発病、感染の予防と治療について学び、生態に及ぼす影響とその対応方法を学ぶ	1年次前期
	病態生理学Ⅰ	<p>専門的な看護を実施するための基盤として、各疾患の病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。</p> <p>【学習内容】</p> <p>1. 呼吸器疾患の症状と病態生理、2. 呼吸器疾患の検査と治療処置、3. 呼吸器疾患の理解、4. 循環器疾患の症状と病態生理、5. 循環器疾患の検査と治療処置、6. 循環器疾患の理解、7. 血液・造血器疾患の症状と病態生理、8. 血液・造血器疾患の検査・診断、9. 血液・造血器疾患と治療の理解</p>	1年次前期

	履修科目	講義等の内容	時期
専門基礎分野 (21単位)	病態生理学Ⅱ	【学習内容】 1. 消化器疾患の症状と病態生理、2. 消化器疾患の検査と治療・処置、3. 消化器疾患の理解、4. 内分泌・代謝疾患の症状と病態生理、5. 内分泌・代謝疾患の検査と治療・処置、6. 内分泌・代謝疾患の理解、7. 自己免疫、8. 腎・泌尿器疾患の症状と病態生理、9. 腎・泌尿器疾患の検査と治療・処置、10. 腎・泌尿器疾患の理解	1年次後期
	病態生理学Ⅲ	【学習内容】 1. 運動器疾患の症状と病態生理、2. 運動器疾患の診断・検査と治療・処置、3. 運動器疾患の理解、4. 脳・神経疾患の症状と病態生理、5. 脳・神経疾患の検査と治療・処置、6. 脳・神経疾患の理解、7. 精神症状および状態像、8. 精神疾患の分類・診断と検査法、9. 精神疾患の治療、10. 精神疾患の理解	1年次後期
	病態生理学Ⅳ	【学習内容】 1. 女性生殖器の症状・徴候と病態生理、2. 女性生殖器も診断・検査と治療・処置、3. 女性生殖器疾患の理解、4. 眼検査と治療及び疾患の理解、5. 耳鼻・咽喉の検査と治療及び疾患の理解、6. 皮膚の検査と治療及び疾患の理解、7. 妊娠・分娩・産褥に伴う生理的变化及び正常な経過、新生児の理解	1年次後期
	臨床栄養学	栄養に関する基礎的知識を学び、病態や栄養状態に基づいた適切な栄養マネジメントについて理解を深め、栄養療法の重要性を理解する。	1年次後期
	薬理学	薬物の特性を知り、薬物作用に関する基礎的事項を理解し、薬物の作用と病態との関連性、薬物相互作用や副作用を学ぶ。また、薬物の管理について理解する。	1年次後期
	リハビリテーション概論	リハビリテーションの概念、理念を理解し、各疾患の特徴を捉え、生活機能の観点から自立支援に向けた介助技術を学ぶ。また、リハビリテーション医療にかかわる職種役割とチームアプローチについて学ぶ。	2年次前期
	リハビリテーション演習	リハビリテーション医療の対象となる人のセルフケア（自立・自律）支援に必要な看護技術を理解する。また、リハビリテーション医療にかかわる専門職の役割と、医療チームの中での看護師の役割を理解する。	2年次後期
	医療と経済	社会構造の変化や価値観の変化により、現在の医療システムは大きく改革が進められている。医療の現状や国の施策や今後の見通しなどを理解し、医療における経済的視点を養う。	3年次前期
	医療と安全	リスクマネジメント、安全な医療を提供するための環境、人、物、情報等を調整する知識と方法を学び、医療の質について考察する。	1年次後期
	保健医療福祉総論	保健・医療・福祉・行政に関する基本的仕組みを理解するとともに、最近の施策の動向と将来の課題について学ぶ。	3年次前期
	公衆衛生学	将来の組織的保健活動に役に立つよう人々の疾病を予防すること、より良い健康水準の獲得を目指すことを目標として、医学的、社会的、疫学的、行政的視点から、健康を維持し、増進するための基礎的知識を習得する。	3年次後期
	関係法規(社会保障制度)	我が国の保健・医療・福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を理解する。また、看護職として国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するために、看護関係法令を理解する。	3年次後期

	履修科目	講義等の内容	時期
専門分野Ⅰ (15単位)	看護学概論Ⅰ	看護の全体像を理解するための基本概念である、人間・健康・環境・看護について学ぶと共に、看護の歴史的な変遷や看護の役割、機能について学習し理解する。	1年次前期
	看護学概論Ⅱ	看護実践の基礎となる代表的な看護理論の概念、特徴を明らかにし、看護実践における理論の活用の基礎的能力を養う。	1年次後期
	フィジカルアセスメント	看護実践に活かすフィジカルアセスメントの知識と技術を身につける。	1年次後期
	家族看護学	看護における家族の役割は大きく、家族の援助なしに患者・クライアントのケアは時として成立しない。看護専門職として、家族とその支援手法及び家族関係性を把握するなかでキーパーソンの果たす役割を認識することは看護活動を実践する上で重要であることを学ぶ。	1年次後期
	看護過程演習	看護を系統的に実践するための思考過程として、対象の健康問題を解決するためのアセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案、実施、評価の一連を学ぶ。その学習過程において、看護過程は実習の基盤となる内容であるため、グループでの問題解決思考を養うとともに、課題の遂行に必要な協調性を養う。	1年次後期
	看護研究Ⅰ	1年次より、研究への関心をもち、論理的思考で現象をとらえ、既存の研究論文やその他の文献を調べる必要性を理解し、3年次の事例研究発表へとつなげるための基礎的な知識を学ぶ。	1年次前期
	基礎看護学方法論Ⅰ	看護技術の概念を理解したうえで、共通する知識・技術を学ぶ。病床環境を多角的に捉えたうえで、安全・安楽を踏まえた環境調整の援助が具体的に実践できるように学習する。また、感染防止のための基本を知り、感染予防の技術を正しく実践できるように学習する。	1年次前期
	基礎看護学方法論Ⅱ	苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為について理解し基本的な援助技術及び創傷管理の基本援助技術を学ぶ。また、医療が提供されるあらゆる場面でおきる医療事故について理解し、医療事故防止の方法を学ぶ。	1年次前期
	基礎看護学方法論Ⅲ	清潔・活動・休息は人間の基本的欲求の充足に必要な日常生活援助であることを理解し、対象への配慮を考えながら、校内実習を通して具体的な援助方法を習得する。	1年次前期
	基礎看護学方法論Ⅳ	健康な生活における食事・排泄の意義を学ぶ。また、食事摂取・排泄機能の障害が対象に及ぼす影響を理解し、校内実習を通して対象に適した援助方法を学ぶ。	1年次前期
	基礎看護学方法論Ⅴ	診療に伴う援助の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される治療、検査、処置などに必要な基本的知識、援助技術の方法を習得する。	1年次後期
	基礎看護学方法論演習	急性期の事例を用いて、患者の状態に応じた看護過程の展開を行う。安全・安楽・自立の看護技術の原則や根拠に基づいた援助計画を立案し、医療安全や倫理的視点を考慮した看護援助を実施するための基礎的な能力を養う。	2年次前期

	履修科目	講義等の内容	時期
専門分野Ⅰ (15単位)	基礎看護学 実習Ⅰ	患者の生活環境と療養生活の実際を知り、対象に合った看護援助について考えることができる。また、患者を尊重した態度について考え、患者とのコミュニケーションを図る能力を養い、看護者としての基本的能力を身につける。	1年次 後期
	基礎看護学 実習Ⅱ	受け持ち患者への看護を通して、一連の看護過程を体験的に理解し、問題解決できる基礎的能力を養う。また、既習の看護技術を受け持ち患者に適用する方法を学ぶ。	1年次 後期
専門分野Ⅱ (38単位)	成人看護学 概論	成人期にある対象者の特徴を発達段階に応じて、身体、心理、社会的側面で捉え、成人が抱える健康問題を広く理解する。また、成人期にある対象者やその家族に応じた看護を実践するための基盤となる主要な概念や理論を学び、成人期の対象者に応じた看護ケアの基礎的な能力を養う。	1年次 後期
	成人看護 援助論Ⅰ	生命の危機的状況にある人々を理解するための基盤となる考え方や理論を学習する。	2年次 前期
	成人看護 援助論Ⅱ	急性期、特に救急等クリティカルな状態にある対象者の身体的変化や心理的特徴を踏まえた効果的な看護援助の在り方を学ぶ。	2年次 前期 後期
	成人看護 援助論Ⅲ	回復過程にある患者とその家族の特徴を理解し、再発予防を含めたリスク管理を行ないながら、活動を促進する看護の役割と方法を学ぶ。また、慢性疾患など生涯にわたり症状・生活のコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を知り、その状況に応じた看護の役割と援助方法を学ぶ。	2年次 前期
	成人看護 援助論Ⅳ	終末期医療の現状を検討するとともに、終末期医療に関する概念を理解する。人間にとっての死、全人的苦痛（トータルペイン）、死とともに生きることについて、考え方や理論、および具体的な援助方法を学ぶ。終末期にある患者および家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、対象のニーズおよび健康レベルの低下に伴い生じる問題に対し、その人らしさを重視して質の高い生活が送れるような方法で援助する方法を学ぶ。	2年次 前期
	老年看護学 概論	加齢の意味や加齢に関する理論、老年期の特徴、加齢のプロセスと健康などについて学び、一人の生活者としての高齢者を理解する。さらに、高齢者をとりまく保健・医療・福祉とその課題について理解し、高齢者ケアにおける看護の役割について学ぶ。	1年次 後期
	老年看護 援助論Ⅰ	加齢と健康の関係や老人の健康障害とその特徴について理解し、健康の保持・増進及び疾病の予防に関する看護の方法を学ぶ。また、健康障害を持つ老人の生活とその老人を取り巻く家族や地域集団にとっての老人の健康の意味、家族をも含めた老人ケアにおける看護の役割について学ぶ。さらに、「年をとる」ことが、人にとってどのような意味があるのか、また、高齢者が生きてきた時代やその価値観について考える。	2年次 前期
	老年看護 援助論Ⅱ	加齢と健康の関係や老人の健康段階に応じた看護のあり方を考え、老人の日常生活の看護援助を学ぶ。	2年次 前期
老年看護 援助論Ⅲ	超高齢社会におけるエンド・オブ・ライフ・ケアを提供するために、必要な知識・技術を学び、多職種チームの一員として看護職が果たすべき役割や基本的態度について考える。	2年次 前期	

	履修科目	講義等の内容	時期
専門分野Ⅱ (38単位)	小児看護学概論	子どもが成長発達過程にあることを理解する上で基盤となる概念や理論を理解し、さまざまな健康レベルの子どもと家族の看護について学ぶ。	1年次後期
	小児保健	子どもを取り巻く社会の動向やライフサイクルにおける小児期の健康課題について理解し、現在・将来の小児看護の方向性について学ぶ。	2年次前期
	小児看護援助論Ⅰ	病気・障害をもつ子どもとその家族に対応した QOL 向上への看護援助について学ぶ。	2年次前期
	小児看護援助論Ⅱ	子ども特有の疾患の病態・症状・診断・治療と看護について学ぶ。また、既存の知識の統合を図り個別的な看護の展開を学ぶ。	2年次前期
	母性看護学概論	母性看護を実践するための基盤となる、母性看護の特徴と概念について理解し女性を取り巻く社会の現状やライフステージ各期の健康と看護について学ぶ。	1年次後期
	母性看護援助論Ⅰ	女性のライフステージの中で変化が激しい時期にある周産期において、母子及び家族の特性と健康問題を理解し、必要な基本的看護援助について学ぶ。	2年次前期
	母性看護援助論Ⅱ	周産期の異常と健康問題を理解し個別的看護について学ぶ。特に妊娠・分娩・新生児・産褥の異常と看護援助について学ぶ。また、これから親となるための育児技術と家族関係について学ぶ。	2年次前期
	母性看護援助論演習	妊娠・分娩・産褥各期および新生児期における対象の特徴を理解し、適切な看護ができる基礎能力を養う。また、対象に必要な保健指導を学ぶ。	2年次前期
	精神看護学概論	精神看護学の観点から、心の健康、健康問題、発達、障がいについて広く学ぶ。個人の心と精神の機能、生活の場である家庭や職場などの集団における心の問題をとらえる。	1年次後期
	精神保健	心の健康（メンタルヘルス）についてはストレス多い現代社会において、さまざまな分野で学ばれ活用されている。ここでは、医療・看護・福祉の総合的視点から精神保健（福祉）について学び、課題を抱えながらも健康に生きていくことはどうしたことなのかを考える。	2年次前期
	精神看護援助論Ⅰ	精神疾患の診断・検査方法・治療について理解し、その知見にもとづき患者の看護の実際と問題点について学ぶ。また、精神の健康上の問題に直面している対象とその家族への援助技術、対応方法について学ぶ。	2年次前期
	精神看護援助論Ⅱ	精神の健康上の問題に直面している対象とその家族への援助技術、対応方法について学ぶ。地域生活を支えるために、看護師はどのような姿勢と視点を持つていくのかを学び、演習する。	2年次前期

	履修科目	講義等の内容	時期	
専門分野Ⅱ (38単位)	成人看護学 (6単位)	実習 I	急性期・周手術期にある成人患者の身体的・心理的状況や対象者の社会的背景を理解し、対象者の尊厳を守りながら回復を促進する看護過程の展開を学ぶ。急性期医療に関わる多職種チームの一員としての看護職の役割について学び、実践する。	3年次前期
		実習 II	成人期にある患者の特徴を踏まえ、回復期にある患者の回復過程を理解し、生活の自立を目指した看護を実践することができる。回復期・慢性期医療に関わる多職種チームの一員としての看護職の役割について学び、実践する。	3年次前期
		実習 III	成人期にある患者の特徴を踏まえ、慢性の経過をたどり生涯にわたり病状・生活のコントロールを必要とする患者および家族を理解し、看護を展開することができる。慢性期医療に関わる多職種チームの一員としての看護職の役割について学び、実践する。	2年次後期
	老年看護学 (4単位)	実習 I	高齢者を総合的・多角的に理解し、その人の生活環境に焦点をあてた医療・ケアについて考える。また、高齢者の基本的ニーズを充足するための看護及び慢性期・終末期を支えるための看護の展開ができる基礎的能力を養う。	2年次後期
		実習 II	高齢者を総合的・多角的に理解し、認知症高齢者に相応しい医療・ケアについて考え、その人らしさを大切にしたい看護が展開できる基礎的能力を養う。	3年次前期
	小児看護学 (2単位)	実習	各発達段階と健康レベルにある小児および家族の健康問題を、保健・医療・福祉・教育の視点から幅広く捉え、必要な看護援助を展開する。小児の医療に関わる多職種チームの一員としての看護職の役割について学び、実践する。	2年次前期後期
	母性看護学 (2単位)	実習	マタニティーサイクルにある女性と新生児を受け持ち、既習の知識・技術に基づいた看護の展開を通して、母性看護の対象理解を深め、女性・子ども・家族の健康に関する課題と看護の役割について考えを深める。	2年次前期後期
	精神看護 (2単位)	実習	精神疾患を抱え、日常生活や対人関係に障害をきたしている対象者を理解し、治療的・看護的関係をもとに展開される精神科看護の実践を通して、看護の方法と役割を学ぶ。更に、精神科におけるチーム医療や多職種との連携について学ぶ。	2年次後期

	履修科目	講義等の内容	時期	
統合分野 (14単位)	在宅看護概論	在宅看護の現状や社会の動向を知り、在宅療養者と家族が住み慣れた地域で生活できるための在宅ケアシステムと看護活動について学ぶ。また、在宅ケアシステムにおける多職種協働と看護の役割について学ぶ。	2年次前期	
	在宅看護援助論Ⅰ	在宅看護を展開するために必要な信頼関係形成のための技術、日常生活援助技術、医療管理技術など、在宅において特有な看護技術に関する知識や方法を学ぶ。	2年次前期	
	在宅看護援助論Ⅱ	在宅で看護を必要としている療養者および家族の潜在能力を最大限に活用し、在宅生活を継続するための看護援助方法を学ぶ。また、在宅移行支援における多職種協働と看護の役割について学ぶ。	2年次前期後期	
	看護研究Ⅱ	看護研究Ⅰを基盤に、これまでの臨地実習で受け持った患者の看護を事例研究としてまとめ、看護研究発表会において発表、質疑応答などの進め方や評価を学ぶ。	3年次後期	
	チーム医療	医療従事者としてチーム医療に必要な知識を習得し、医療従事者間の連携や協働について学ぶ。また、実習で体験したチーム医療の現状とチーム医療の知識を統合し、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップについて理解する。	3年次前期	
	看護管理	医療チームの一員として組織的・効果的に看護を提供するための看護管理の基本概念を学び、より質の高い看護サービスを提供するための課題発見力・課題達成力・評価能力を習得する。	3年次後期	
	災害看護・演習Ⅰ	災害が市民の健康や生活に及ぼす影響について学び、災害発生直後から始まる災害医療における看護職の役割、医療チームにおける多職種との連携について学ぶ。	3年次前期	
	災害看護・演習Ⅱ	災害看護・演習Ⅰの学習を通して、災害時の救急処置の実際について学ぶ。	3年次後期	
	看護技術評価	卒業後早期に求められる臨床判断と適切な看護援助を、医療現場に近い状況で学習をし、看護技術を総合的な評価を行う。	3年次後期	
	(2単位) 在宅看護論	実習	生活の場で行われている看護活動の実際、在宅療養者と家族の生活を支えている保健医療福祉サービスの現状を知り、在宅看護の役割・機能についての理解を深める。在宅における終末期の利用者・家族への看護の役割について理解をする。関係機関・職種との連携の実際を学び、在宅における看護の責任や倫理的配慮について考え、自己洞察を深める。	3年次前期
	(2単位) 看護の統合	実習	統合看護実習は3年間の講義、演習、実習での学びを統合し自らの看護観・人間観・健康観と看護者としてのアイデンティティを育む。また、チーム医療、多職種との協働、医療安全、看護管理の視点で看護者の役割を学ぶ。	3年次後期
総計			101 単位 (3000 時間)	